
愛続乱戻。

ひとみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛続乱戾。

【Nコード】

N7433Z

【作者名】

ひとみ

【あらすじ】

永想恋続。の続編です。

どうぞ見てやってください（）

1話 プロローグ（前書き）

春菜、あーんして？ b y. 孝太

1話 プロローグ

チュ・・・チュンツ・・・

・・・ああ・・・。。。

スズメの声が・・・聞こえる。

今は、何時かな—————??

・・・お腹空いたな・・・。

春菜『・・・ってええええええッ!?!?』

初めましての方には、初めまして。

お久しぶりの方には、おはろーです。

星川春菜、15歳。

今日から第一高等学校の1年生です・・・って!?!!

春菜『自己紹介とかなんとか、
そうとかしてる暇ないしッ!?!?』

・・・只今午前7時57分。

春菜『ああああああああッ!?!!』

はるにい
春兄、

なんで起こしてくれなかったのッ!？」

一人、自分の部屋で激怒しながら

真新しい第一の制服に手を伸ばして・・・

・・・思い出した。

そっか・・・

春兄は、サークルの合宿とやらで、
いないんだった。

パパとママは結婚記念日で
京都へ行っている・・・。

春菜『・・・ばっかみたい・・・』

今日は星座占い12位でしたか・・・？

答えは、NO。

12位どころか、1位だったよ!？」

・・・あの占いもう信じられない・・・ッ。

春菜『・・・っと?』

まだ洋服屋さんの匂いがする制服を、
ハンガーから外したら。

春菜『これ・・・
読んでなかった・・・』

・・・高校からのお知らせプリント。
ざっと目を通すと、

〈新入生は、9時30分までに
校門通過をしましょう！〉

・・・の文字が。

春菜『あ・・・う・・・』

・・・全然遅刻じゃない、むしろ早起き。

春菜『あの占い当たってるなー』

さっきとは、全くもって
矛盾している一言を呟きながら、プリントをよく読む。

春菜『・・・あーあ・・・。
持ってくるものはー、っと？

筆記用具・・・入学通知表・・・
保護者・・・？

あ。保護者いないから、
入学通知表の不在に丸しなきゃ・・・』

そんなこんなで用意をしていると、
もう8時20分だった。

春菜『朝ごはん・・・』

・・・を食べて、

春菜『歯磨き・・・』

・・・をして、

春菜『制服・・・』

・・・に着替えて、

春菜『鞆・・・』

・・・を持って、

春菜『行ってきまーす』

・・・と、誰もいない家に、
お知らせをしてから・・・。

春菜『葵衣に電話・・・しなきゃね』

そう。

私と、私の大親友の葵衣、
それに—————？、

〈彼氏〉の、孝太。

彼氏になって、あんなに
経っているのに、
まだ実感が湧かなくて・・・。

春菜『あ、葵衣？』

今家出たから、10分後くらいに
そっち行くね』

ちなみに、京香ちゃんは
どこぞのお嬢様学校らしい。

・・・頭良いしね。
でも、せっかく打ち解けたのに、
ちよっと残念；

・・・と、そのとき。

ドンッ

春菜『す・・・すみませんッ』

誰かにぶつかってしまい、
とっさに頭を下げる。

・・・いくらまっても返事がない。
で、すごく怒ってるんじゃないかと怖くなって、
恐る恐る、頭を上げた――――？・・・。

今・・・このとき、どうして気づかなかったんだろう？
そんな後悔も虚しいよ・・・。

ホント、どうして分かんなかったんだろう？

――――？始まりは終わり
だということに。

To be continued

1話 プロローグ（後書き）

とうとう part 2 ですねーw
それだけいえば十分（キリッ

2話 登場人物（前書き）

春菜、あーんして？ b y. 孝太

2話 登場人物

星川 春菜

ほしかわ はるな

第一高等学校1年生

孝太と幼馴染みで

家のマンションの敷地が隣同士

髪の長さは、そのままだと肩甲骨らへん（笑）で、
基本編みこみ付きのポニーテール

普通に可愛い

頭も普通に良くて、5教科中3教科は75点以上
彼氏さんⅡ孝太

白馬 孝太

はくば こうた

第一高等学校1年生

彼女さんⅡ春菜

母子家庭

頭も春菜と同じくらい

普通に・・・いや、めっちゃかっこいい

宮川 京香

みやかわ きょうか

（どこぞのお嬢様学校の）高校1年生
めっちゃ可愛い

髪は肩のところへんで、

時々二つ結びしたりしているが
基本そのまま

白馬 美紗奈

はくば みさな

孝太のお姉ちゃん

大学生で、春菜のお兄ちゃんと付き合っている（同い年）

押しが強く、おせっかい

頭？ああ、いいよ。よすぎるから！

きれいなお姉さんみたいなイメージ

大学では物理

星川 春也

ほしかわ はるや

春菜のお兄ちゃん

大学生で、美紗奈と付き合っている（同い年）

かなりかつこいい

さわやかうって感じの人

でまあ、頭良いみたいなねww

大学では音楽

高木 葵衣

たかき あおい

第一高等学校1年生

春菜の親友

勉強？なにそれおいしいn（ry

みたいな感じw

点数はだいたい50点以下くらい

ピアノ上手い

合唱コンとかではいつも伴奏

明るくて、クラスのムードメーカー的な存在

髪は首の付け根らへんの長さで、

時々一つにしている

陸玖さん

りくさん

もう亡くなりましたよ（笑）

詳細は不明、

性別も不m（蹴

・・・男ですよ？

ほかにも、あとで

追加しますよb

3話 嫉妬（前書き）

春菜、あーんして？
b y. 孝太

3話 嫉妬

ドンッ

春菜『す・すみませんッ』

誰かにぶつかってしまい、とっさに頭を下げる。
・・・いくらまでも返事がない。
で、すぐく怒ってるんじゃないかと怖くなって、恐る恐る、頭を上げた、ら。

春菜『あれ?・・・えっ!?!あれ!?!?』

誰も・・・いない...?

今私は、確かに誰かにぶつかった。
だって、“うわっ”って声が聞こえたから。

――?なんで・・・?

そう思いながら私は、辺りをぐるっと見回した。

春菜『・・・え・・・;』

ホントに誰もいない。
・・・と思ったら。

ポンッ

と、誰かに後ろから肩をたたかれた。
急いで売りかえってみると・・・、

？『さっきはごめんねえ？・・・星川さん』

後ろに人がいたことに驚くと同時に、私の名前を知っていることに驚いていた私は、
何も言えずにカチン・・・と固まっていた。
・・・しかもなんか、かっこいいし、背が常識の範囲以内で高い。
・・・まあいいや。

？『・・・あ。もしかして名前？鞆に書いてあるからさ・・・』

ちょっと苦笑しながらその人は、私の鞆にチラッと視線を向けて、
また話し始めた。

春菜『あ！そっか。・・・さっきはすみませんでしたっ！えっと・・・』

悠『橋本悠。悠って呼んでいいよ。
あー楽しかった。ずっと隠れてたんだよ?』

名前がわからず戸惑っていた私に、名前を教えてくれた。
一言余計なんだけど。
まあスルーしておく。

春菜『星川春菜です!』

自己紹介をしていなかったことを思い出して、急いで自分の名前を言う。

悠『うん。・・・え...っとき、敬語やめない?俺1年だし』

春菜『い...1年生!?!』

私が驚いてはしもと・・・あ、悠の顔をまじまじと見ると、悠は苦笑しながらこう言った。

悠『うん。そうだよ?てかはるたん顔見すぎ・・・』

春菜『ごっ...ごめん!・・・ってはるたん!?!』

私が唾然していると、悠は元気いっぱいの笑顔を浮かべた。

悠『うん！春菜だからはるたん。・・・いや？』

春菜『いいけど・・・』

・・・あのね、悠？

そんな元々が整った可愛い顔なのに、拗ねた顔とかさ、
彼氏持ちの私でもドキドキするんだよ？・・・いやとか言えないで
しょ、普通。

悠『やったー！』

満面の笑みを浮かべながら、

悠『ね、一緒学校行こう？』

私に問いかける。

え、まてまて・・・。葵衣がいるよ・・・？

でも断れなさそう・・・。どうしよう・・・。
なんて思っていると。

ブーツ・・・ブーツ・・・

携帯のバイブ音が鳴った。

春菜『あ、私だ』

どこか楽しそうに私の返事を待っている悠をよそに、
急いでケータイを開く。

“新着メール1件”

メールを確認してみたら・・・、

“From 葵衣

Subject: 無題

春菜ごめん＞＜

先に行ってて！”

の文字。

・・・嘘でしょ…？

じゃあ私、悠と学校行かなきゃなんだ・・・？

葵衣にわかった、とだけ返信をして、電柱をうろついている猫と戯れている悠の方を向いて、

春菜『悠・・・！』

と、名前だけで悠を呼ぶ。
すると、

悠『なにー？』

と、こっちに背中を向けて、まだ猫と戯れている悠から、返事が返ってきた。

春菜『・・・行こっか？』

半ば呆れながら一緒に行く、という返事を含んだ言葉を返したら。

悠『ほんとッ！？』

いきなり悠が振り向いて、・・・猫が驚いていた。
駆け足でこっちに来た悠をチラリとみてから、私はこう言った。

春菜『うん。・・・あ、時間ヤバいかも。急ごっ』

・・・

•
•

•
•
•

・
―――? 高校前―――?

高校に着くと、新入生達いちねんせいがたくさん門を通過していた。
その人達をボーッと眺めていると、見覚えのある後姿が目の端に映った。

春菜『あ！孝太！！』

私が言うと悠は、

悠『なに?・・・彼氏さん?』

と、悪戯っ子のような笑みを浮かべて、私をおちよくり始めた。

春菜『・・・ッ!・・・まあそうなんだけど…。あーもおおつ!!
は…恥ずかしいんだからあ…止めてよもお…………』

頬を赤らめて、俯いてしまった私。

そう。俯いてしまった。だから見えなかった、悠の表情^{かお}。
そして――――？、孝太の表情^{かお}・・・。

悠『行ってきた。あ、さっきはありがとう！』

さっきというのは、一緒に学校へ来たことだろう。

春菜『うん！』

私はそう返事をして、孝太の方へ走り寄って行った・・・。

浮かれていて・・・見えなかった、孝太の複雑そうな顔と、
聞こえなかった、悠の“とっちゃおうかな”なんて呟き・・・。

T o b e c o n t i n u e d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7433z/>

愛続乱戾。

2012年1月4日02時49分発行